安全のため各種ご注意を守り正しくお使いください。

[設置地域に関するご注意]

●寒冷地（北海道、青森、秋田、岩手を中心とした次世代省エネ基準のⅠ地域、Ⅱ地域）および最低気温が－10℃を下まわる地域では寒冷地仕様機をご使用ください。（寒冷地仕様機の運転動作範囲は－20℃～43℃です。それを下回る地域では、保護装置の作動、能力低下の恐れがあります）

●塩害地（海浜地区で潮風が直接当たる場所）では、機器が故障する恐れがありますので、耐塩害仕様機をご使用ください。

●温泉地帯など特殊な場所では、機器が故障する恐れがありますので、据付けないでください。

[水質に関するご注意]

●水質は必ず、水道法に定められた水質基準に適合した水道水を使用してください。水質によっては、タンク、減圧弁、逃し弁、熱交換器等の寿命が通常より短くなることがあります。特に温泉水、地下水、井戸水で使用した場合、通常の寿命は保証しかねます。（不具合等が発生した場合、無償保証はできません。）ただし、弊社の水質判定基準を満たすことを確認し、使用を認めた場合に限り、ダイキンエコキュートをご使用いただけます。

●自家浄水システムの処理水を使用する場合、水質によっては故障の原因になりますので、必ず相談窓口にてご相談ください。

[設置に関するご注意]

●据付基準を守って据付けてください。

●ヒートポンプユニットは通気性が良い場所や強い風の当たらない場所に据え付けてください。

●ヒートポンプユニットは運転音や冷風が隣の家などの迷惑にならない所へ据付けてください。また、外気温が低い時は、運転音が大きくなります。（特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準及び都道府県の条例などを満足すること）

●動植物に直接風が当らない所に据えつけてください。動植物に悪影響をおよぼす原因になることがあります。

●ヒートポンプユニットはテレビ、無線機等のアンテナより3m以上離してください。

●脚はアンカーボルトで必ず固定してください。

●基礎は満水時の質量に十分耐えるように、また本体設置面は水平かつ水はけ良く施工してください。

●積雪地区に設置する場合は、貯湯ユニットは小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。また、ヒートポンプユニットは架台の上に据え付け、雪が空気吸込口・吹出口から入らないように防雪カバーを取り付けるなど、小屋がけをするか雪が積もらないよう防雪屋根をつけてください。

●太陽熱温水器とエコキュートの給水接続口の接続はできません。

●風呂配管は複数の浴そうには接続できません。

●本体1台に浴室リモコン1台、台所リモコン1台を接続します。給湯専用らくタイプは台所リモコン1台のみです。サブリモコン（別売）は1台取付可能です。

●家庭用給湯機ですので船舶、車両へは取付けないでください。又、特殊（飼育物用等）には使用しないでください。

[水配管・機材等に関するご注意]

●水配管工事は、水道工事認定業者が行ってください。

●給水圧力は200kPa（2kgf/cm²）以上500kPa以下、高圧パワフル給湯の給水圧力は300kPa（3kgf/cm²）以上500kPa以下でご使用ください。

●水源水圧を減圧しているため、給湯圧が水源水圧よりも低くなります。

●水源水圧が500kPa以上の場合、減圧弁を追加してください。

●ウォーターハンマー現象が発生する場合は、水撃防止装置を取り付けてください。

●ヒートポンプユニットは運転時ドレン水が排出されます。排水工事を行ってください。

●沸き上げ中は貯湯ユニット逃し弁から膨張水（湯）が排出されます。必ず排水工事を行ってください。

●給湯用水栓には必ず逆止弁付き湯水混合栓を使用してください。逆止弁のついていない湯水混合栓を使用した場合や給湯用水栓が故障した場合、給湯温度が低くなります。

●給湯配管径が細いと給水抵抗が大きくなり、お湯（水）の勢いが弱くなる場合があります。

[タンクの湯温・湯量に関するご注意]

●風呂保温・追いだき運転時は昼間もヒートポンプ運転を行うことがあります。

●リモコンの設定により昼間もヒートポンプ運転を行うことがあります。

●お湯の使用量や使用条件により、実際に使えるお湯の量は異なります。

●外気温やタンク内の残湯量により沸き上げ温度は変化します。

●タンク内のお湯は放熱により少しずつ冷めます。

●配管部材からの放熱で実際に貯湯する湯温は沸き上げ湯温より低くなります。

●お湯の使用量が少ない場合、朝のリモコン残湯量表示が全点灯しないことがあります。（省エネのため、全量を沸き上げない「部分沸き上げ」を行います）

●貯湯式給湯器ですので瞬間式給湯器と比べて連続して使用できるお湯の量には限りがあります。お湯の使用量が多いご家庭や湯切れをご心配される場合は貯湯量がワンランク上の機種をお選びください。湯切れをすると、お湯を沸き上げるまで時間がかかります。

●お湯を上手にお使いください。1日に使用できるお湯の量には限りがあります。洗いもの時やシャンプー時の流しっぱなし等に注意し、こまめに止めてください。

●風呂保温時間が長い場合や、前日の残り湯を追いだきした場合、タンク内部の湯温が下がり、湯切れする恐れがあります。残り湯を少なくしてからふろ自動運転を行ってください。

●深夜沸き上げ時間帯に入浴などで多くお湯をご使用した場合、翌日、湯量不足になる場合があります。深夜のご使用時は満タン運転に切り替えてご使用ください。

[使用に関するご注意]

●正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず取扱説明書をお読みください。そのあと大切に保管してください。

●入浴の際は、予め湯温を確かめてから入浴してください。湯温が高いと火傷の危険性があります。

●シャワーをお使いになるときは、まずお湯の温度を確かめてからご使用ください。

●湯水混合栓及び浴そう循環口からの出湯温度は、配管からの放熱により、設定温度より低めになることがあります。

●浴そうアダプターの付近でもぐったりすると、髪の毛が吸い込まれて事故につながる恐れがありますので、ご注意ください。

●ストップシャワー、マッサージシャワーなどのシャワーヘッドを使用すると、出湯量が少なくなることがあります。

●浴室、シャワー、台所、洗面所などで2ケ所以上同時にお湯を使用すると、出湯量が少なくなることがあります。

●風呂自動運転中はジェットバスの使用はできません。お使いの際は風呂自動運転をお切りください。

●台所リモコンは防水タイプではありませんので、水をかけないようご注意ください。故障の原因となります。

●浴室リモコンは防水タイプですが、シャワーなどで直接水をかけないで下さい。故障の原因となります。

●そのままの飲用はお避けください。長期間のご使用によってタンク内に水垢がたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わっていることがあります。飲用される場合は以下の点に注意し、必ず沸騰させたものをご使用ください。

・必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
・熱いお湯が出てくるまでの水（配管にたまっている）は、雑用水としてご使用ください。
・固形物や変色、濁り、異臭等がある場合には、飲用せずに直ちに据付け工事店（販売店）へ点検を依頼してください。

●硫黄・酸・アルカリを含んだ入浴剤、浴そう洗剤や温泉の湯を使用しないでください。貯湯ユニットや配管が故障し、水漏れするおそれがあります。入浴剤・洗剤を使用する場合は、表示書きなどで成分をご確認の上、上記成分が含まれるものは使用しないでください。

「タオルや浴槽が青くなる」現象について

給湯機の配管には銅管が使われており、この銅イオンと石鹸の脂肪酸や皮脂が反応すると青色の不溶性銅石鹸が生成され、浴槽の周囲などに生成付着して青ばむことがあります。使用地域の水質によっても同様の反応が起こり、薄青くなることがあります（井戸水や簡易水道での使用時に比較的起こりやすい現象です）。また銅と空気と水の反応で、塩基性炭酸銅（緑青）が銅管表面に発生することもあります。なお、緑青・不溶性銅石鹸はいずれも無害です。

《対処》●タオルや布の場合:70～80℃のお湯に食酢を混ぜて10～15%溶液を作り、浸漬すると脱色します。●浴そうやタイル目地の場合:弱アルカリ性の洗剤をつけて、スポンジでこすり洗いをしてください。洗剤、スポンジによっては、傷がつきやすいものがありますので、注意してください。